



増戸小だより

Tel 042-596-0240

Fax 042-595-1022

あきる野市立
増戸小学校
No. 6
令和7年9月30日

横沢入 稲刈りの体験

～カヤネズミの巣は豊作の証～

校長 時計 祐司

9月25日（木）、5年生と横沢入に稲刈りに行きました。6月の田植え、7月の雑草取りに続き、3回目の体験です。以前の時期に比べると多少暑さは和らぎましたが、まだまだ油断のできない気温の高さでした。とはいえ、日陰では横沢入を吹き抜ける秋風が心地よく、子供たちも休憩中には秋の自然を感じることができました。

鎌を手に、いよいよ稲刈りの開始です。鎌の扱いには不慣れながらも、一度覚えてしまえば子供たちは早いもの。鎌で稲を刈る子、刈り取った稲を運んで集める子と、役割を交代しながら順調に稲刈りを体験することができました。



▲実り咲く 黄金の稲穂と 彼岸花
令和7年9月25日 撮影

さて、現在での稲刈りは、ほとんど農作業用の機械を使って取り組んでいます。では、子供たちが鎌を使った手作業で稲刈りを体験する意義とは何でしょうか。生産者の苦勞を知る、ということは大切な学習です。しかし、苦勞だけ学んでも、「こんなに大変なら、農業はやりたくない。」という考えに至ってしまう子もいるでしょう。それだけの体験にならないよう、ここで社会科の学習を生かし、消費者だけでなく生産者の立場に立って現在の稲作に関わる様々な問題に関して、自分なりの考えをもつ子供たちに育ってほしいと願っています。また、難しく考えずに「皆で汗を流しながら収穫や労働の喜びを分かち合う」、これも体験的な活動の醍醐味だと考えています。



▲カヤネズミ
5 cm程度の大きさでした

また、田んぼからは「カヤネズミ」の巣が見付かり、実際に3匹のカヤネズミを観察することができました。カヤネズミは、日本では一番小さなネズミで、残念ながらレッドリストに登録されているほど、希少な生き物です。田んぼに巣を作るカヤネズミの食料は、稲ではありません。稲作の害虫となるイナゴや、繁殖する雑草のヒエを食べます。そのことから、カヤネズミの巣は「豊作の証」とも言われているそうです。横沢入の自然の豊かさを改めて感じるすることができました。

最後に、子供たちの学習のために尽力していただいた横沢入の「タンボの会」の皆様に変更して御礼申し上げます。ありがとうございました。